

地域の個性を生かしたまちづくりの推進

南部創造のまちづくりの先導地区と位置付ける、らくなん進都をはじめとして、地域の個性を生かしたまちづくりを進めています。

各地域の位置は
P4・P5に掲載



西大路

西大路駅周辺を美しくする会



まちの「きれい」を保つ、毎週水曜の1時間

「ゴミ拾いを始めた頃は、いくつもゴミ袋が必要でしたが、最近ではずいぶん減りました。きれいにしているとポイ捨てしにくくなるんでしょうね」と語るのは、「西大路駅周辺を美しくする会」の事務局長・森岡隆司さん。毎週水曜の朝9時半から1時間、地元住民の主要メンバー13名が中心となって清掃活動に取り組んでいます。

西大路地域では、平成9年に行政からの呼びかけで、地元自治会とJR西大路駅周辺に拠点を置く企業6社で同会を設立。約1400台にも及ぶ放置自転車の対策を契機に、三者のパートナーシップが始まりました。企業からの用地提供を受けて駅南口に大型駐輪場が整備された今では、歩きやすく快適な町になっています。

週に1度の清掃活動では、交通違反者講習の受講者をボランティアとして受け入れており、これまで約1万人の方が参加してきました。「町に直接関係のない方もまちづくりに関わってもらってるんです。行政担当者に毎週会えるのもいいですね。日頃の考えを伝える意見交換の場にもなっています」と人とのつながりも大切にしています。課題はメンバーの世代交代。全住民参加型の町一斉清掃や「YouYouパーク 花いっぱい運動」などを通して、周知を図る取組も展開中です。



事務局長
森岡隆司さん



横大路

横大路まちづくり協議会



イベントが高める、地域愛とまちづくりの機運

かつて平安の昔から水運の要所として栄えた草津湊^{くさつみなと}を有し、鴨川と桂川の合流点付近に位置する横大路地域。ここではその歴史的な価値を地元住民に伝え、地域愛^{ちいきあい}を高めることを目的に「草津みなと^{くさつみなと}と海道の祭り」を3年に1度実施しています。主催しているのは、水と緑を生かしたまちづくりを目指す「横大路まちづくり協議会」。同協議会副会長の岡井英夫さんによると「イベントの計画から会場整備、当日の運営まですべて自分たちの仕事。大変ですが大勢集まってくれますし、いろんな企業や団体にも協力してもらえるようになってきました」と手応えを感じるそうです。

一方、長年の懸案事項となっているのが、3地区（伏見西部第三、四、五地区）の区画整理事業の推進です。特に平成元年から事業が始まった伏見西部第四地区は、京都守口線の東側の道路整備は進んでいますが、西側はまだ道半ばの状況です。児童の安心・安全確保に向けた小学校の移転計画とも連動しているため、早期実現を目標に各種施策のPRにも注力。「住んで良かったと思われる郷土愛を感じていただけるようにしたい」。地域住民や事業主のさらなる理解を得て、推進を図っていきます。



同協議会副会長
岡井英夫さん



伏見

文化や歴史などの地域資源を活用したまちづくりを推進

伏見桃山がんばる七商店街

伏見桃山・中書島地域の7つの商店街が連携し、「伏見桃山がんばる七商店街」を組織しています。これまで、夏祭りやアートフェスティバルなどを合同で実施し、商店街の集客力の向上にぎわいの創出による地域商業の活性化に取り組んでいます。



竜馬通り商店街のシャッターアート「幕末新回廊」

地域と連携した観光振興

大学、地元商店街、行政が一体となり、多くの観光資源のある伏見南部地域（旧伏見市）まで、公共交通機関を利用した観光客の誘客を目指し、地場産業である「酒」をテーマにした観光マップ「半日散歩」を作成するなど、観光振興に取り組んでいます。



観光マップ「半日散歩」

伏水がたぐ酒蔵のあるまちづくり提言

桃山丘陵からの良質な地下水に恵まれ、かつては「伏水」とも呼ばれた伏見。伏流水が育んだ伝統文化を未来につなげていくため、オール伏見の酒づくりや地域の食文化資源を活用したイベントを通じて伏見の酒蔵周辺地域の魅力を発信します。



南区

南区企業の“知”活用促進事業

数多くの企業の本社や研究所、工場が集積する南区において、企業と区民との交流促進を図るために平成23年度から実施しています。区内の企業の本社や工場を訪問して企業が有する独自の技術などに触れることで、区民と企業の交流、地域との共生を図るとともに、持続的な企業活動の支援を図ります。



区民の企業訪問

らくなん進都

らくなん進都のまちづくり

らくなん進都（高度集積地区）とは

市南部を南北に貫く幹線道路（油小路通）沿道を中心とした面積約607haの地区です。新しい京都を発信するものづくり拠点を目指して、南部創造のまちづくりの先導地区として、様々な取組が進められています。

らくなん進都整備推進協議会とは

住民・企業・経済団体・行政機関などを構成員として平成12年に設立。美化活動や地域イベントを通じて「らくなん進都」をPRしています。幹事である下鳥羽自治連合会の村瀬副会長は「世界的な企業から老舗企業まで多彩な企業が地域の活動に積極的に協力していただけるのも協議会活動のおかげ」と語ります。会員企業の社員と学生が交流する企業勉強会では、参加した学生から「実際に働いている方と直接話ができて良かった」など好評です。



龍谷大学での企業勉強会

企業誘致の推進

企業用地の確保

- 企業用地の確保のため、らくなん進都内の土地を製造業等の本社・工場等に提供された場合に奨励金を交付しています。
- らくなん進都及び周辺の事業用地をお探しの方に「京都南部企業立地情報ネットワーク」により物件情報を提供しています。

都市計画手法の活用

- らくなん進都鴨川以北産業集積地区建築条例により工場、研究施設等への容積率を割り増しました。

久我

久我の杜

羽束師

ビジョンに基づいたまちづくり

広大な農地など緑豊かな環境に恵まれる一方、住宅開発に伴う様々な課題を解決するため、「久我・久我の杜・羽束師地域の総合的なまちづくりビジョン」を策定。「久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会」を中心に、公共交通優先に向けたモビリティ・マネジメントに取り組み、市バス増便につなげるなど、多世代が住む緑豊かな誰もが好きになれるまちづくりを進めています。



緑豊かな地域